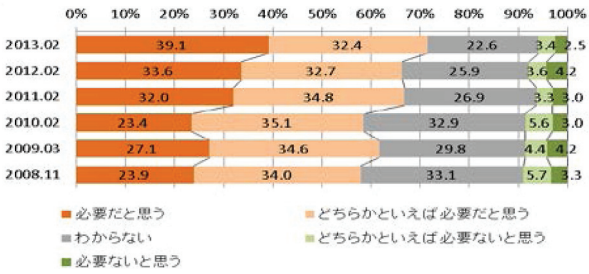


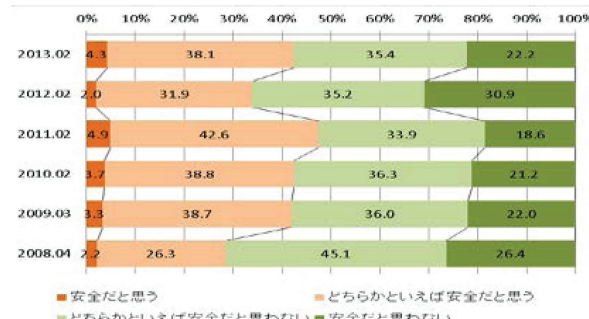
NUMO 広報活動で効果測定

キャラ使用で「認知度」向上 地層処分で継続調査 「必要性」、「安全性」にもシフト

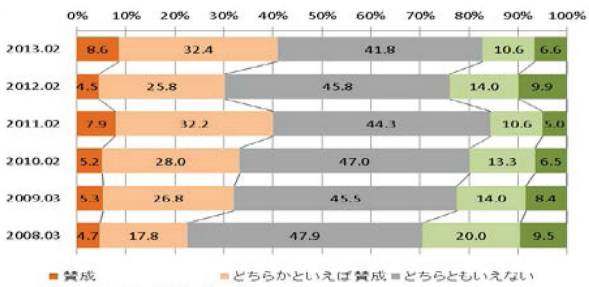
グラフ3と4の調査は〇八年度以降、グラフ5と6の調査は〇七年度以降に、設問を追加して実施された。



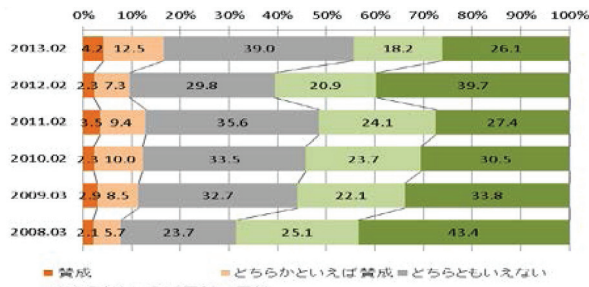
グラフ3 質問：あなたは「高レベル放射性廃棄物の地層処分」は必要だと思いますか。



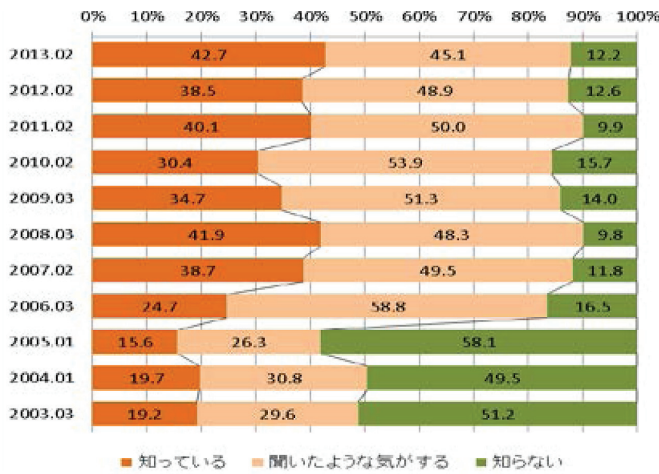
グラフ4 質問：あなたは「高レベル放射性廃棄物の地層処分」の安全性について、どのように思いますか。



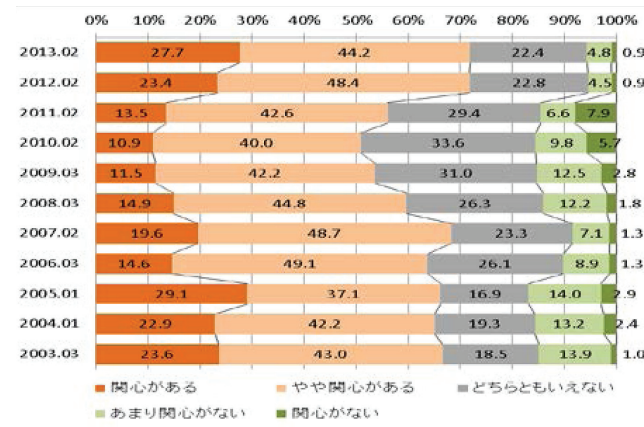
グラフ5 質問：「高レベル放射性廃棄物の地層処分」を進めることに対して、あなたはどのように考えますか。



グラフ6 質問：あなたが現在お住まいの地域に高レベル放射性廃棄物の処分地が建設されるとしたら、どのように思いますか。



グラフ1 質問：あなたは「高レベル放射性廃棄物の処分」という問題について何かご存知ですか。



グラフ2 質問：あなたは「高レベル放射性廃棄物の処分」という問題にどの程度関心をお持ちですか。

原子力発電環境整備機構（NUMO）は二十日、高レベル放射性廃棄物処分に関する広報活動の効果について、総合資源エネルギー調査会の放射性廃棄物小委員会で報告した。処分制度創設から十年を経て、未だ処分地選定の調査に至っていない状況から現在、同小委員会は、最終処分の取組の見直しを行っている。

NUMOは、二〇〇〇年の設立以来、テレビ・ラジオCM、新聞・雑誌への広告、フォーラム、座談会の開催など、地層処分に関する広報活動を展開してきた。今回の報告は、これら広報活動の効果や、どの程度到達・浸透しているのか継続的に把握するため、NUMOが〇二年度以降実施してきた全国三千人規模のアンケート調査結果の推移をまとめたものだ。

それによると、まず、処分問題の認知度は、〇二年度の公募開始当初、四〇～五〇％で推移していたが、キャラクターやキャッチコピーを使用し、PR活動に取り組み始めた〇五年度以降は、八〇％に達している（グラフ3）。

〇～九〇％に向上してきた全国三千人規模のアンケート調査結果の推移をまとめたものだ。また、〇七年の東洋町からの応募以降、調査の訴求ポイントを認知度から「必要性」、「安全性」にシフトしてきたが、「必要性」については、調査を開始した〇八年以降向上し、一三年度には約七〇％に達している（グラフ4）。



Leading Supplier of Nuclear Fuel Cycle Goods and Services



株式会社テネックス・ジャパン
TENEX-JAPAN Co.,

東京都港区虎の門5丁目11番2号 オランダヒルズ森タワー14F
(Tel) :03-5776-1511 (Fax) :03-5776-1512 (E-mail) : info@tenex.co.jp